

平成27年度 浜名湖連携活動モデル事業

特定非営利活動法人 コラボりん湖西
代表理事 神谷 尚世

目的

- * 従来型のつながりでは商業・工業・観光・市民活動どれも近年中に限界が生じてくる。人口減少も視野に入れ、浜名湖をフィールドとして活用してもらえらるような新機軸が必要である。それぞれの得意分野を活かし、それを活用する人がふえていくことで、新しい産業・観光・市民活動を生み出すサイクルをつくっていく。
- * キーワードは、「自転車」「浜名湖」「商業」「工業」「観光」「市民記者」「IT技術」「マッピング」です。

対象

関わってもらう人

自転車に乗っている人
自転車に乗っている人が入れるお店
自転車を置くラックを開発・製作する工場
天竜浜名湖鉄道の駅
浜名湖周辺の市民活動団体
IT技術者

それを使う人

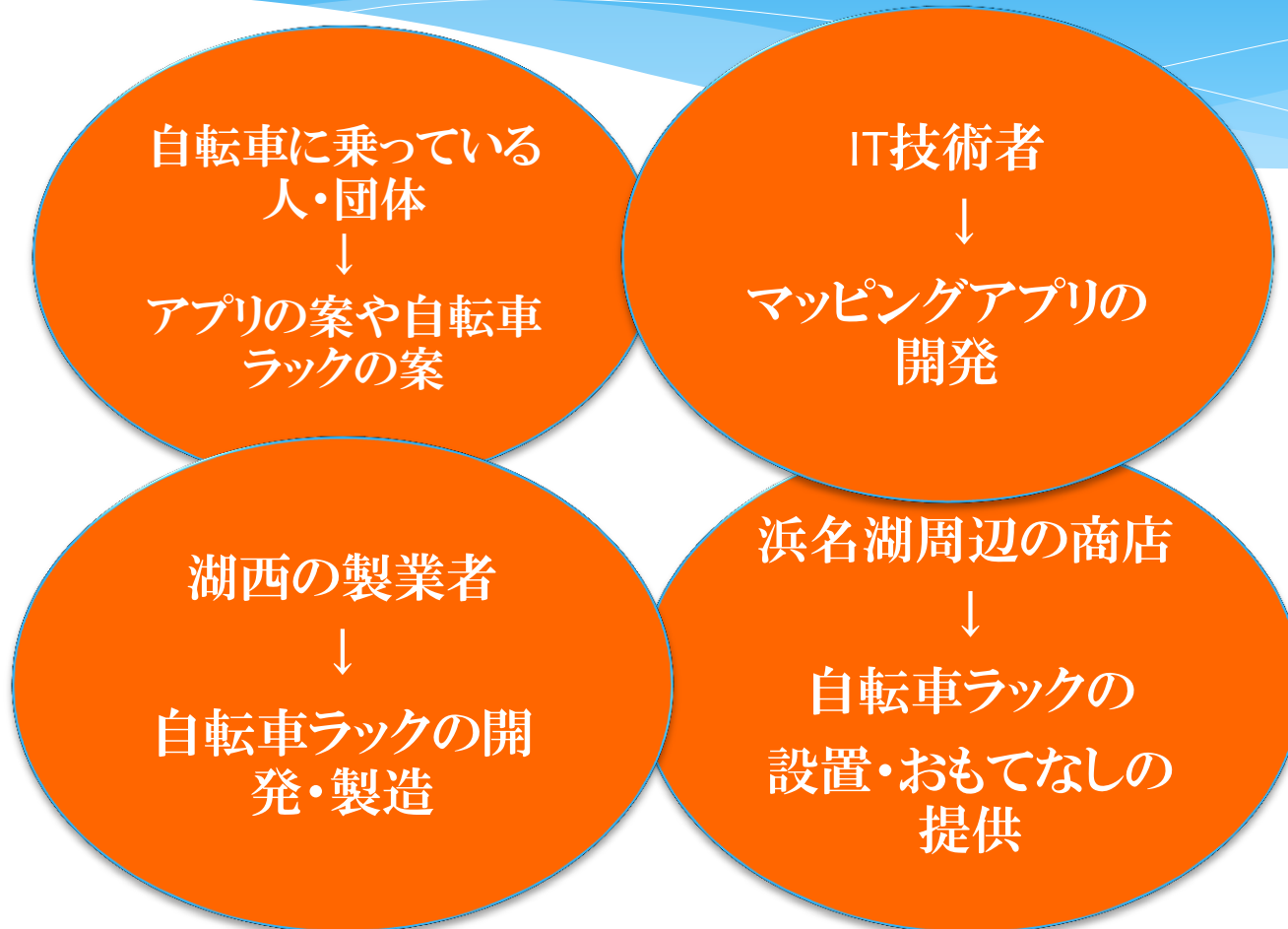
世界中の
浜名湖に
関心のある人

実施体制

- * 市民活動・市民の意見の集約と他業種の連携のパイプ役→特定非営利活動法人コラボりん湖西
- * 観光や天竜浜名湖鉄道に関わること→遠鉄トラベル
- * 浜名湖周辺の商業・工業の人たちとのコーディネート→湖西市商工会
- * マッピングやアプリの開発に関わること→オープンデータ浜名湖

事業全体の運営委員会と各部会を設置する

事業内容



すべてがうまく回りだすと観光が盛んになる

湖西の製造業者

- * 自動車産業が盛んな湖西市周辺は、下請けの製造業者も多く、独自産業がないためにこの先の景気の不安を抱えている。また、下請けのため開発・連携の機会が少ない。



- * 異業種との連携を深め、やり甲斐と思いのある仲間との協働作業でオリジナル自転車ラックの開発・製造をする。

浜名湖周辺のお店

- * 浜名湖は何が名物なのか？と聞かれて、「ここのこれがおいしい」と答えれる人がどれだけいるだろうか。
- * このお店の「これ」というものを地元以外ひとの視点で紹介してもらうことで、お店のよさ、商品のよさを実感し、更なるおもてなしができるようにする。



自転車ラックを設置し、自転車でのお客様が来やすい環境をつくる。

お店独自のおもてなしを考える。

IT技術者

- * これまでマッピングパーティというとIT技術者を中心とした人たちで集まり、情報を落としこむことが多かった。
- * 技術はあるが、情報とネットワークがなかった。



日本ではまだまだ開発・活用の少ないマッピングアプリを開発し、多くの人が活用しやすい環境を整える。

それを行なうことで、商業・工業・観光に関わる人たちの役に立つ、また浜名湖に関心のある人に浜名湖周辺を知ってもらうきっかけができる。

連携のメリットと事業効果

- * この事業は参画型であるため、関わる人や団体、事業者それぞれが主体的になることができる。
- * 従来型のつながりではうまれなかった新しい連携や協働は浜名湖をフィールドとした活動や事業にも役立てられる。
- * それぞれの得意分野を活かし、それを活用する人がふえていくことで、新しい産業・観光・市民活動を生み出すサイクルをつくっていく。

事業終了後の展開

- 1 このマップを多くの人に広め、浜名湖への集客を増やす一つのきっかけとなるよう広報していく。
- 2 マッピングアプリをさらに改良していき、より使いやすいものになっていくようにする。
- 3 自転車ラックの開発・改良をおこない、浜名湖オリジナルの商品にしていく。
- 4 東京オリンピックや富士登山などの外国人観光客にも対応できるような広報の仕方を商店が学び、スキルアップしていく。
- 5 商工会と市民活動の連携・協働の機会を増やしていく。